

# 経済振興意識変え跳躍

## 県内経済3団体トップ、今年の決意



今年の意気込みを漢字一字で表す(左から)柳原幸一筆頭代表幹事、村瀬幸雄会長、山口嘉彦会長＝岐阜市長良、岐阜グランドホテル

## 成長と分配の好循環目指す

県商工会議所連合会、県経営者協会、県経済同友会の県内経済3団体のトップが16日、岐阜市長良の岐阜グランドホテルで新春記者会見に臨んだ。国際秩序を主導する国家がない「Gゼロ」の進行による世界の混迷が最大のリスクとも言われる2025年。経済の好循環が期待される中で、3人のトップは今年の意気込みを「興(おこす)」「変(かえる)」「跳(とぶ)」の漢字1文字で表した。

(青山和史、松浦健司)

県商工会議所連合会の村瀬幸雄会長(十六銀行会長)が決意を込めた一字は「興」。地域振興や経済振

興の重要性を強調し「能登半島地震からの復興を続けていく中で、また職員も現地にいく機会があれば支援

をしたい」と力を込めた。

4月に開幕する大阪・関西万博にも触れ「各国が自由主義に走る中で、日本企業のカスタマーファーストや

三方良しといった考えの下、ものづくりの素晴らしさやおもてなしの高さをこの興業で見せることができるといい」と述べた。

県経営者協会の山口嘉彦会長(エスライングループ本社社長)は「変」と書い

た色紙を見せ、石破政権が少数与党になって、国内政治も政治屋から国民のために仕事をする政治家に変わってきたと変化を指摘した上で「産業界も新しい商品開発を進め、DX(デジタルトランスフォーメーション)や生成人工知能(AI)を活用して人手不足を解消し、仕事内容を変えようという思いで書いた」と決意を語った。

筆頭代表幹事(鶴飼会長)は「跳」という一字を示し「当会は創立40周年の節目を迎える。昨年3月は360人ほどだった中、今年秋までに総勢400人のメンバーにして新たなスタートを切りたい。跳躍の年にしたい」と決意。さらに「今年は日本経済がデフレから脱却できる年になると信じている。成長と分配の好循環により、日本経済が大きく飛躍してほしいという願いを込めた」と述べた。

県内経済3団体は16日、新春懇親会を岐阜市内で開き、財界人ら約300人が集まった。物価の高騰やトランプ米大統領就任に伴う貿易摩擦、中国経済の減速など不透明感が漂う2025年。出席した経営者に日本経済や各業界にどんな変化をみるか聞いた。

TYKの牛込進会長は中国経済の低迷を懸念し「今年は楽観できない。中国は過剰生産に陥っている。鉄鋼関係を含め値段は安く、品物もいので日本に影響が出る」と指摘。その上で「新しいものをどんどん作っていかないといけない。キーワードは過去の延長線から脱却すること」と力を込めた。トラック輸送能力が不足する「物流の2024年問題」への

## 世界の不透明感懸念

対応が続く物流業界。セイノーホールディングスの田口義隆社長は、他社との共同配送など効率化の取り組みに触れ「自社だけで頑張っても立ちゆかないの、今年は業界全体で協調して解決していく動きが強まると思う」と期待した。バローホールディングスの田

### 懇親会「つかみどころのない1年」

代正美会長兼CEOは各業種で「1強」の動きが加速すると見る。「給料を大幅に上げられる会社と、そうではない会社で格差が出る。それぞれが経営資源をつまく使ってやっていくしかない」と述べた。

関、美濃市に生産拠点を置くフェザー安全剃刀(大阪市)の

太平洋工業の小川信也会長は「今年は蛇のようにくねくねとしたつかみどころのない1年になるのではないかと予測。自動車業界についてはEV(電気自動車)に移行するまで(ガソリン車やハイブリッド車)の需要はまだあるので安定した生産が期待できるのでは」と話した。